

ふくし“きらり人。”

題字：塚田 翔伍



塚田 翔伍さん 社会福祉法人にいはり福祉会 障害者支援施設みもり園 副施設長

今回の「ふくし“きらり人。”」は、社会福祉法人にいはり福祉会の障害者支援施設みもり園の塚田翔伍さんです。

塚田さんは、生活支援員としての業務のほか、副施設長として人事や施設の経営などにも関わっています。

生活支援員としては、障害のある利用者の方たちの生活のサポートをしており、利用者にはいろいろなことを経験してほしいとの思いから、様々なプログラムを職員とともに考えています。

一方、副施設長の立場となると、職員の確保など苦労する点も多いようです。

今回のふくし“きらり人。”への応募も、福祉の魅力を一人でも多くの方に知ってもらいたいという強い気持ちがあつてのこと。

もっと福祉を盛り上げたいという熱い想いを持つ塚田さんに現場の取り組みについて聞いてみました。



福祉への道はボランティアからー

もともとは大学では福祉とは異なる分野を学んでいて、福祉の仕事に進むつもりはありませんでした。しかし、学生時代に施設でボランティアをする機会があり、そのことがきっかけとなり福祉の道に進もうと思いました。

その施設では、障害のある人も、職員も、みんなが笑顔で楽しそうに生活をしていました。その笑顔を見ているうちに、自分まで楽しくなってきた、ボランティア期間中は、ずっと利用者と一緒に過ごしていました。

そのなかで、自分もこうした人たちの役に立てたらいいなと思うようになったのが福祉の道に進んだきっかけです。

利用者と共に過ごす日々ー

最初に就職したのは、県外の施設でした。

ボランティアの経験が少なく、福祉については未経験でしたので、利用者の方が何を伝えたいのかが分からず、とても苦労しました。

そこで、利用者の気持ちを理解するために、とにかく一緒に時間を過ごすようにしようと考えました。一緒に食事をするのはもちろん、入浴を共にしたりしました。時には、一緒に寝たこともありました。共にする時間を増やしていくことで、少しずつ利用者の気持ちが理解できたように感じています。

福祉を1から学ぶー

働き始めて数年たったとき、きちんと福祉について学びたいと考えるようになりました。1年ほど大学に通い、社会福祉士の資格を取りました。

資格取得以外にも、施設経営のマネジメントについて学ぶことで視野が広がりました。また、大学での学びとこれまでの現場での経験とが結びついて、自分の中でも腑に落ちることが多々ありました。

その点では、先に現場を経験してから大学で学ぶことも、良いのではないかと感じています。



利用者の笑顔とともにー

利用者と一緒に生活して、日常の中で一喜一憂を隣で感じられることが、何より嬉しいです。

私は参加しませんでした。施設の20周年旅行があった時も、利用者が楽しかった思い出を聞かせてくれたり、お土産を買ってきてくれたりしたので、旅先でも私のことを思い出してくれていたと感じ、とても嬉しくなりました。

様々な体験や経験を通じて、利用者の人生の「生きがい」や「喜び」のためのプロセスを作れること、そして利用者の人生の一部につながれることにやりがいを感じています。



**“ふくし”きりり人。”募集中！
ホームページで確認！★★★**